

2 - 8 日本海中部地震震源域のマルチチャンネル反射法音波探査

Multichannel Seismic Reflection Profiling across the Epicenter of the 1983 Japan Sea Earthquake

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部では、昭和59年7～8月に測量船「拓洋」による日本海中部地震震源域の海底地形地質構造調査を実施した¹⁾。ここでは、この調査の一環として行われたマルチチャンネル反射法音波探査の断面図について報告する。

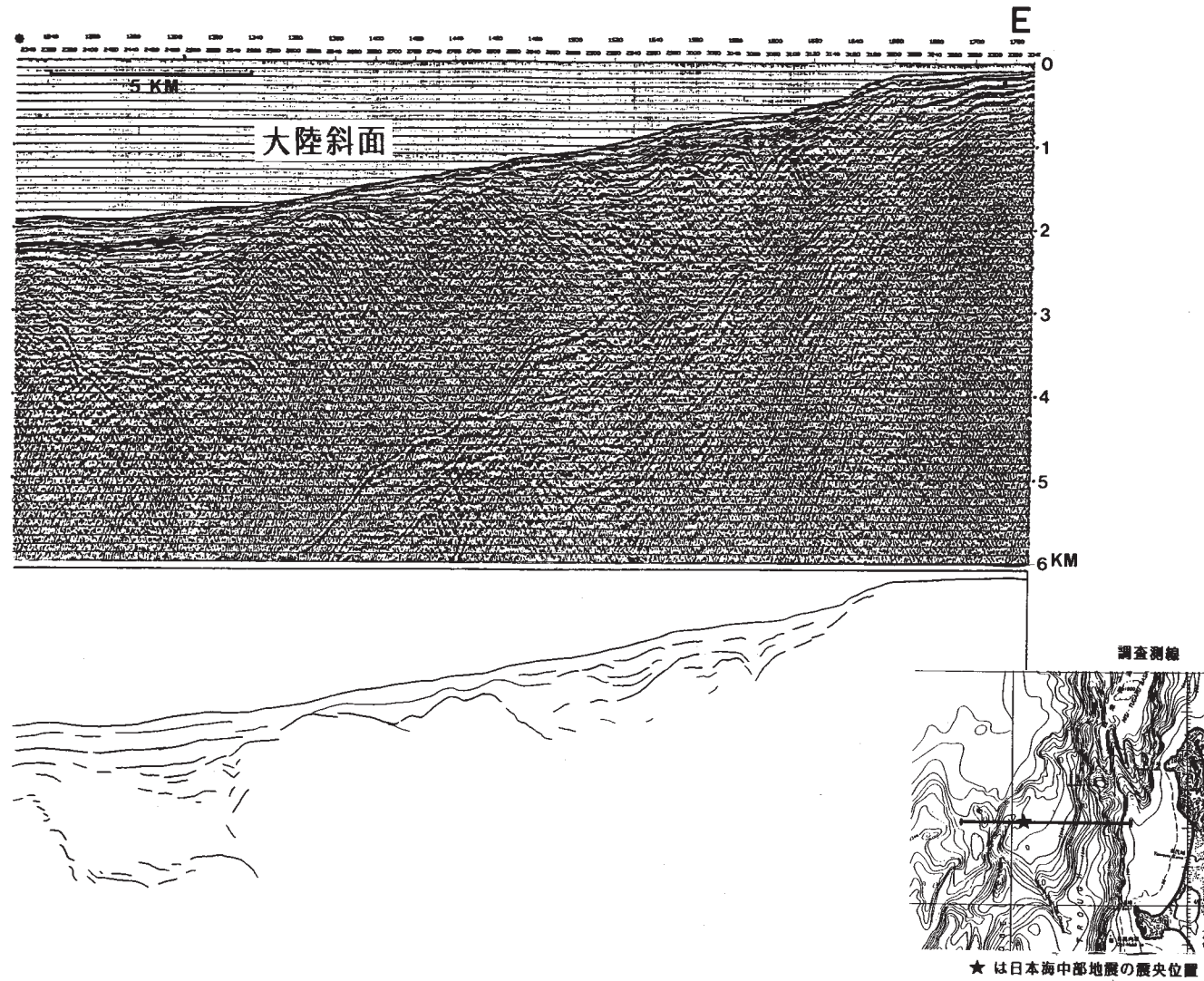
測線は日本海中部地震の震央を横切る全長83kmの東西測線である。探査はエアガンを音源とし、12チャンネルストリーマーケーブルにより受信した。第1図に示す断面は、共通反射点6重合、デコンボリューション、マイグレーション等の処理の後作成された深度変換断面図である。

この断面図から次の事項を読み取ることができる。

- (1) 大陸斜面下は音響的基盤の起伏が激しく、その凹地を堆積層が埋めている。特に大陸斜面下部には海底から約2kmの深さの基盤凹地が認められた。
- (2) 最上トラフには、約1kmの堆積層が存在し、数か所褶曲構造が認められた。また、トラフ西部には、音響的基盤を約200m、堆積層中程の顕著な反射面を約100m変位させる東落ちの断層があり、その位置は日本海中部地震の震央に近い。
- (3) 佐渡海嶺では音響的基盤が高まりとなっているが、海底に露出してはいない。日本海盆には厚さ600mの堆積層が音響的基盤を覆っている。

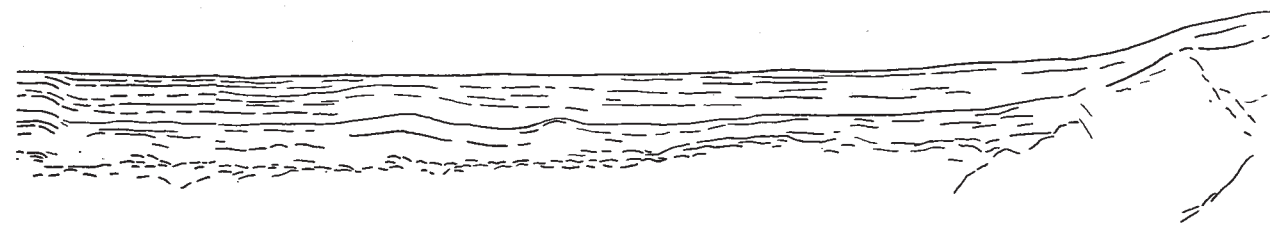
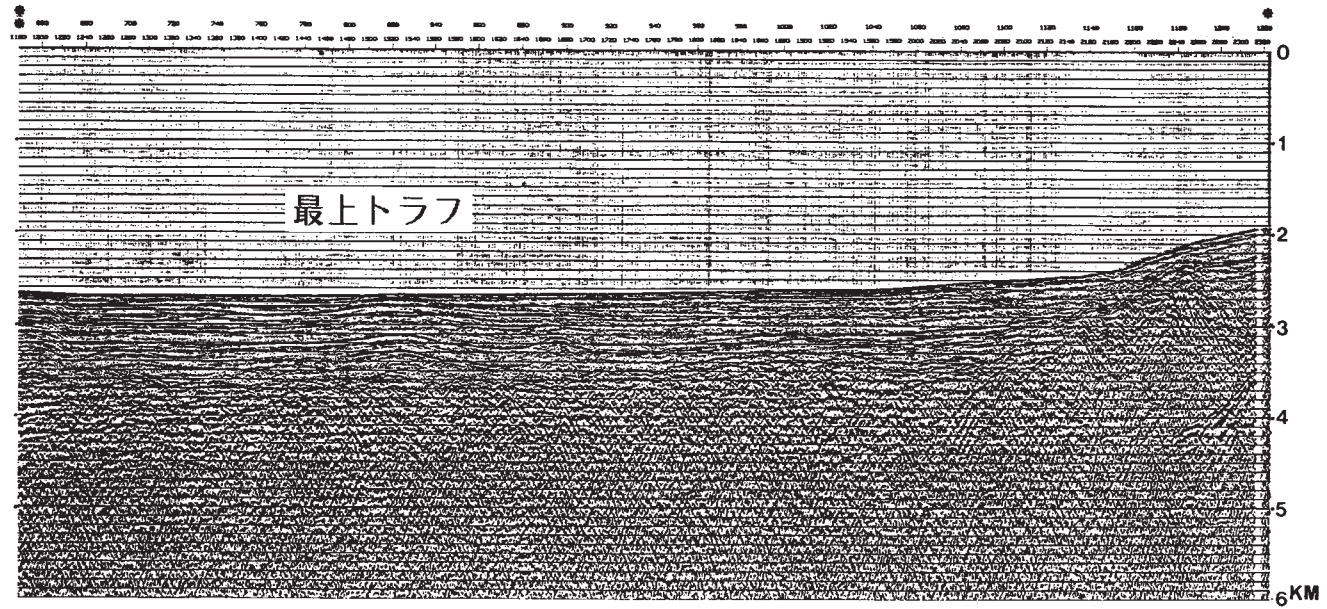
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：拓洋による日本海中部地震震源域調査，連絡会報，33（1985），42 - 44.

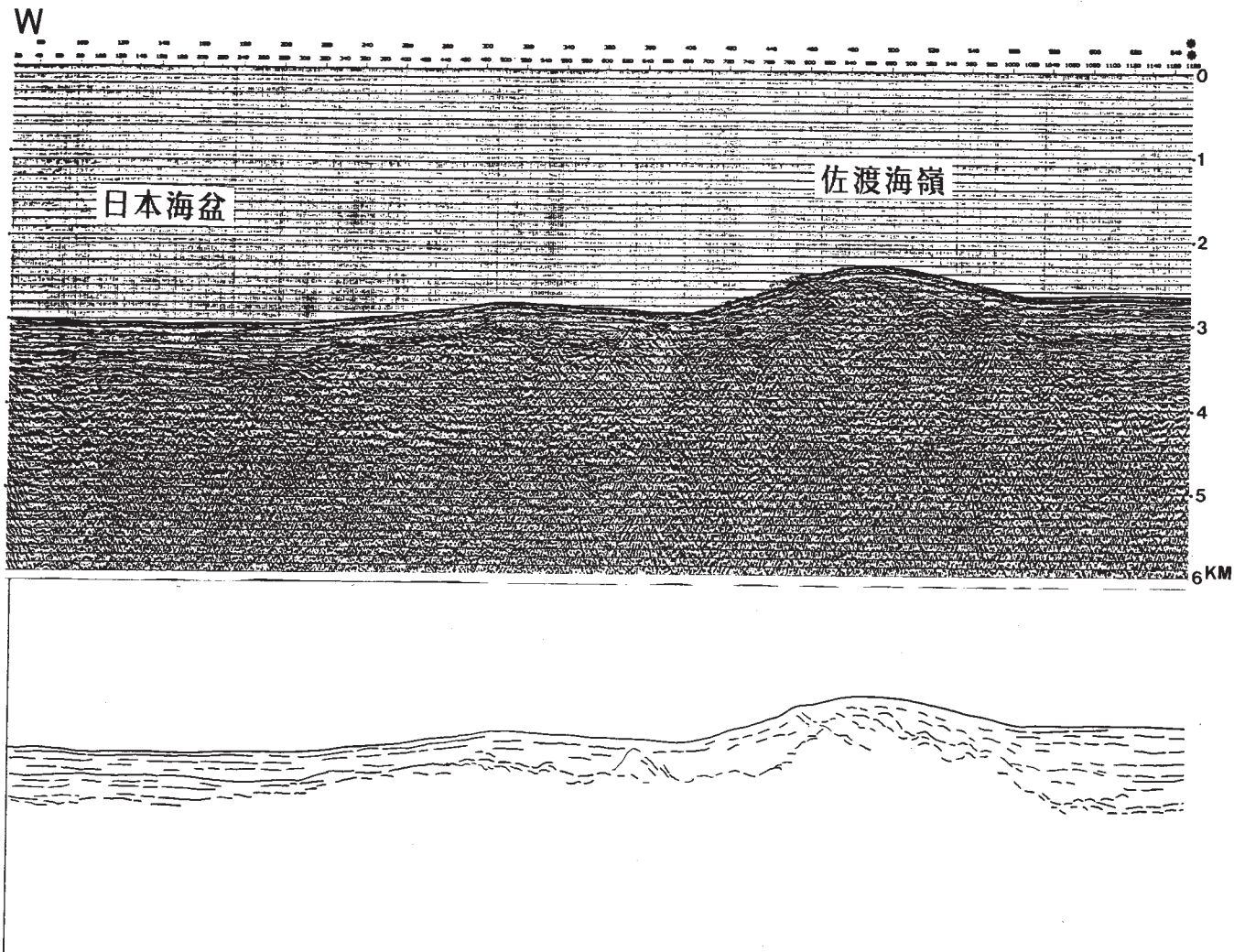


第1図 (1) 日本海中部地震の震央を横切るマルチチャンネル反射法音波探査断面図

Fig. 1 Migrated depth section across the epicenter of 1983 Japan Sea Earthquake.



第1図 (2) つづき
Fig. 1 (Continued)



第1図(3) つづき

Fig. 1 (Continued)